



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一四九号）

雨水

二月一日

神路屋

伊勢路の工芸品を集めた神路屋は、職人長屋と呼ばれる干物屋や神具店が並ぶ通りの突き当たり。切妻造、杉赤味板のきざみ囲いで覆われた伊勢特有の大きな建物です。食を扱う店が多い横丁の中では、珍しい存在ではないでしょうか。

その神路屋の二階が新しくなったというので訪ねてみました。伊勢千代紙で包んだかわいらしい判子や縁起物の七色だるま、各種の箸が並ぶ一階から階段を上がると、伊勢型紙のはがきをはじめ、便箋やふうとう、手帳、和紙などがずらりと並びます。

「紙製品を中心とした和テイストのものを集めました。神路屋というより、紙を扱うという『紙司屋』にしたいと思ひまして」というのは、店長の松尾勝治さん。五年ほど前に神路屋の店長をして再び、その任に着きました。

「日常遣いの紙製品は、手軽なのでもらっても困ることがあまりなく、温もりがあります。そして、加工がしやすいのでお客さんのニーズに合わせて作り手が新しい商品を作る可能性も持っているのです」と松尾店長は、紙へのこだわりを教えてくださいました。

確かに伝統工芸品だけが並んでいた頃よりも、来店者が商品を手にとって選んでいる姿を多く見かけます。以前から扱っていた伊勢型紙は紙管の入れ物に使い、それに伊勢型紙で染めた手ぬぐいを入れ、おしゃれなひと品に。これは手ぬぐいを出した後は、ペンケースにするというそうです。作り手の遊び心がうかがえます。

商品だけでなく、白い厚紙をアレンジした照明や、じゃばら状になった陳列棚、ベンチも紙管を使ったりと、調度品にも紙を使うこだわりよう。紙はもっと暮らしに取り入れられるとその可能性を再認識しました。

文 千種清美

